

平成20年度

シラバス
(第2学年)

大阪府立西浦高等学校

教科名〔 国語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
現代文	2単位	2学年 1～6組(全クラス)	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①日本語の基礎となる、ことばの正しい意味、漢字、基本的な文章表現などを修得する。 ②日本語の文章を正しく読み取る。 ③評論文の学習を通して思索を深め、自己の思想・アイデンティティを形成する。 ④文学作品の学習を通して、人間の思想・情緒・生き方等について学び、人間・人間社会・人生について探求する。 ⑤自己の考えを論理的に正しく他者に伝えられるようになる。
使用教科書・副教材等	第一学習社『高等学校標準現代文』 東京書籍『新総合図説国語』 明治書院『書き込み式漢字の学習』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						態度 関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
第1学期	「木の自由を考えながら」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント・ 「私という自分」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント・ 「相棒」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント・	4 ・ 5	・文章の流れをつかみ、随想の基礎的な読解方法を身につける。 ・筆者の思考方法を学び、自らの思考や視野を広げる。 ・登場人物の姿を通して、自分について見つめ直す契機とする。	国語辞典で語句の意味を調べる。	第1学期中間調査	○	○	○	○	
	「空虚なコミュニケーション」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント 「ナイン」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・評論の基本的な読み方を習得する。 ・筆者の考えたに触れ、自らの言語生活や自分を取り巻く社会について思索を深める。 ・短編小説の読み方を習得し、小説のおもしろさを味わう。 ・登場人物の姿を通して、自分について見つめ直す契機とする。	国語辞典で語句の意味を調べる。	第1学期期末調査	○	○	○	○	
第2学期	「ブータンの時間」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント 「ミラクル」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント	9 ・ 10	・文章の論理的な構成を把握し、筆者の主張を理解する。 ・異文化に関心を持ち、自国の文化や価値観を相対化する視点を育てる。 ・小説のおもしろさを味わい、鑑賞のしかたを学ぶ。 ・主題の考察を通し、人生におけるさまざまな問題に真摯に取り組む態度を身につける。	国語辞典で語句の意味を調べる。	第2学期中間調査	○	○	○	○	

	「情けは人の・・・」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント	10 ・ 11 ・ 12	・評論の基本的な読み方を習得する。 ・筆者の考えたに触れ、自らの言語生活や自分を取り巻く社会について思索を深める				○		○
	「鼻」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント		・近代の代表的な小説を理解・鑑賞する力を身につける。	「図説」を見て 芥川龍之介について調べる。	第 2 学 期 期 末 考 査		○	○	○
第 3 学 期	「永訣の朝」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント	1 ・ 2	・近代詩に親しみ、鑑賞の態度を養う。 ・想像力を豊かにし、言葉に対する感受性を養う。	「図説」を見て 宮沢賢治について調べる。	学 年 末 考 査	○	○	○	
	「こころ」 漢字・難しい語句の意味・内容 読み取りプリント	3	・近代日本文学の不朽の名作を、時間をかけて読み込む。 ・小説の個々の表現に即して、登場人物の心理を探り、各人物の心の変化、相互の葛藤、生の軌跡をたどる。	「図説」を見て 夏目漱石について調べる。		○	○	○	
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業で使用したすべてのプリント。ノート。長期休暇中の宿題。その他折々の課題。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査(約70%) 平常点(出欠・授業中の態度・提出物等 約30%) 1・2・3学期の成績の出し方は内規通り。									

教科名〔 国語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
古典	2単位	2学年 1～6組 (全クラス)	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①日本と中国の古典的名作を読み、固有の情緒や、描かれた文学的世界を味わう。②歴史的仮名遣いを完全に修得し、古典的語彙を豊かにする。③古典文法の基本を学習する。 ③書き下し文、句法等漢文の基礎を学習する。④日本と中国の古典の面白さを発見する。
使用教科書・副教材等	第一学習社『標準古典』 東京書籍『新総合図説国語』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解
第1学期	「大江山」 （『古今著聞集』） 「平中が事」 （『古本説話集』） ・脚注を参考にしながら口語訳をする。 ・内容の面白さを理解する。 ・用言の終止形を、しっかり学習する。	4 ・ 5	・各説話の主題を考えた上で、それぞれの面白さを味わう。 ・作品の生み出された時代背景を考える。 ・登場人物の関係、また、それぞれの感情を理解する。 ・古典文法の基礎として、用言を学び、活用形を学習する。		第1学期 中間 考査	○			○
	「かぐや姫の昇天」 （『竹取物語』） ・用言の活用 ・動詞・形容詞・形容動詞の特質を学ぶ。 ・それぞれの活用形を覚える。 ・口語訳をする。 ・作品の面白さを味わう。	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・生徒に親しみのある作品を用いて、用言の学習の基礎を学ぶ。 ・脚注と文法知識を活用して、口語訳を試みる。 ・登場人物の心情を理解する。		第1学期 期末 考査	○			○
第2学期	「故事・寓話」 『刻舟求劍』 『朝三暮四』 『病入膏』 『画竜点睛』 『推敲』 ・訓点の働きを理解する。 ・原文を書き下し文に直す。 ・難しい熟語の意味を調べる。 ・全体を訳す。	9 ・ 10	故事・寓話を学ぶ ・レ点、一二点を中心として、訓点の働きを理解する。 ・しっかりと書き下し文に直し、話の展開を理解する。 ・内容の面白さを理解する。		第2学期 中間 考査	○	○		○
						○			○

	<p>『徒然草』 「公世の二位のせうとに」 「相模守時頼の母は」 「吉田と申す馬乗り」 「よるづのことは頼むべからず」</p> <p>・動詞・形容詞・形容動詞、それぞれの活用形を答える。 ・口語訳をする。 ・作品の面白さを味わう。</p>	<p>10 ・ 11 ・ 12</p>	<p>・作品の中にある風刺を読み取る。 ・現代にも通じる批評精神を学ぶ。 ・文に頻出する用言について知的理解を深める。</p>		<p>第2 学期 期末 考査</p>	<p>○</p>			<p>○</p>
<p>第3 学期</p>	<p>『更級日記』 「門出」 「源氏の五十余巻」 「鏡のかげ」</p> <p>・難しい語句を辞書で調べる。 ・文法知識を活用して、口語訳をする。</p> <p>諸家の思想 論語 韓非子 ・通読し、大意、筋の展開を追う。</p>	<p>1 ・ 2 ・ 3</p>	<p>・日記に記載された事実から、書き手の人柄や心情を読み取る。 ・平安貴族の知性に触れる。 ・作品を通して、古典世界の人情、振る舞いを学び、味わう。 ・中国の思想の系統について、その概略を学習する。 ・論旨を明らかにし、比喻の巧みさ、説得の巧みさを読み取る。</p>		<p>学 年 末 考 査</p>	<p>○</p>	<p>○</p>		<p>○</p>
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業で使用したすべてのプリント。ノート。長期休暇中の宿題。その他折々の課題。</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】 定期考査(約70%) 平常点(出欠・授業中の態度・提出物等 約30%) 1・2・3学期の成績の出し方は内規通り。</p>									

教科名〔 地理歴史 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
日本史B	2単位	2年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①日本史を通史で学習することにより、日本の文化・伝統を理解し、自国の歴史に対する見識を深める。 ②世界史的な視点を取り入れることによって、国際社会の一員としての自覚を養う。
使用教科書・副教材等	清水書院『高校日本史B』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	第1篇 原始・古代 1 旧石器時代 2 縄文時代 3 弥生時代 4 古墳時代	4 ・ 5	・日本の旧石器時代の考察 ・縄文時代の生活と文化 ・弥生時代と稲作文化の始まり ・古代国家の成立過程	随時、日本史写真パネルを使用	第1学期中間考查	○	○		○
	5 飛鳥時代 6 奈良時代 7 平安時代	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・大化の改新と律令国家の誕生 ・奈良時代の仏教の広まりと天平文化 ・桓武天皇の律令制度再建策 ・平安初期の密教文化 ・文化の国風化と浄土思想 ・武士の台頭と平氏政権	随時、日本史写真パネルを使用	第1学期期末考查	○	○		○
第2学期	第2篇 中世 1 鎌倉時代 2 室町時代	9 ・ 10	・源氏の勃興と武家政権の誕生 ・地頭の荘園支配 ・鎌倉新仏教の成立 ・鎌倉幕府の滅亡 ・建武の新政 ・室町幕府の成立と内乱	随時、日本史写真パネルを使用	第2学期中間考查	○	○		○

	3 戦国時代 第3篇 近世 1 安土桃山時代	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・下克上の社会と戦国大名の台頭 ・ヨーロッパ人の来航とキリスト教 ・信長の全国支配とその崩壊 ・豊臣政権の成立 	随時、日本史写真パネルを使用	第2学期期末考査	○	○		○
第3学期	第3篇 近世 2 江戸時代	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・幕藩体制の確立 ・鎖国政策の完成 ・元禄・化政文化 ・三大改革と幕府財政の悪化 ・幕府と諸藩の改革 ・幕府政治の動揺と黒船の来航 	随時、日本史写真パネルを使用	学年末考査	○	○		○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>授業プリントの提出、課題の作成、各長期休みには、復習の課題を課す。</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <p>プリント提出、課題の提出、授業態度、テストなどを総合的に評価する。</p>									

教科名 [公民]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
政治経済	2単位	2年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①政治・経済の大まかな仕組みを理解する。 ②現代社会が抱える様々な政治・経済の問題を学ぶ。 ③政治・経済のさまざまな問題に対し、自分なりの意見を持てるようにする。
使用教科書・副教材等	実教『新盤・政治経済』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・ 意欲	思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
第1学期	1 現代の政治 1.民主政治の基本原理 2 法の支配と人権の確立 3 民主政治のしくみ 4.世界の主な政治体制 5 民主政治の特質	4 ・ 5	政治、国家、法などの定義 法の支配について 民主政治の成り立ちおよび社会契約説の説明 民主政治の成立の歴史 議院内閣制と大統領制の特徴と発展の歴史	教科書および プリント使用	第1 学期 中間 考査	○	○		○
	2 日本国憲法の基本原則 1 日本国憲法の制定と基本原則		大日本国憲法と日本国憲法の比較 日本国憲法の成立過程 日本国憲法の三原則の内容			○	○		○
	2.基本的人権の保障 3.平和主義	6 ・ 7 ・ 8	参政権について 自由権の内容 死刑制度について 平等について また、現在の様々な差別事象 について学習させる。 社会権について 新しい人権についての説明 「公共の福祉」についての説明 9 条の内容とその解釈の変遷	教科書および プリント使用 必要に応じて ビデオ教材使 用	第1 学期 期末 考査	○	○	○	○
第2学期	3 日本の政治機構 1 国会 2 内閣 3 裁判所 4 地方自治	9 ・ 10	国会、内閣、裁判所のそれぞれの役割とその 互いの関係について学習する。 地方自治の内容、および現在の問題点につい て	教科書および プリント使用 必要に応じて ビデオ使用	第2 学期 中間 考査	○	○	○	○

	4 日本の政治の特質と課題 1 世論とマスコミ 2 選挙と政治意識 3 政党政治と政治参加	10 ・ 11 ・ 12	民主政治の中の世論の力について考える。 日本の選挙の方法を理解する。 日本の政治のしくみと問題点を考える。	教科書および プリント使用	第2 学期 期末 考査	○	○	○	○
第3 学期	5 現代の国際政治 1 国際社会の動向 2 国際関係と国際法 3 国際社会の組織化 4 国際政治の課題 5 地球環境問題と国際社会 6 国際社会における日本の役割	1 ・ 2	冷戦後の世界の動きを知る。 国際法のはたす役割と限界について考える。 国際連盟および国際連合の仕組みについて 国際問題の解決策を考える。 地球環境の現状とその保護について考える。 日本のこれからの世界へのはたらきかけを 考える。		学年 末 考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業プリント提出、各長期休みには、問題集より課題を課す ノート提出									
【1・2・3学期における評価方法】 プリント提出、ノート提出、授業態度、テストなどを総合的に評価する									

教科名〔 理科 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
物理 I	2単位	2年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	計算演習・実験・実習を通じて、自然現象を支配する物理法則について理解を深める
使用教科書・副教材等	高等学校改訂新物理 I (第一学習社)

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	第IV章 電気 第1節生活の中の電気 第2節電波と情報通信	4 ・ 5	電荷について基本的知識を習得する。 オームの法則を理解し計算できるようになる。	出欠, 授業に取り組む態度, 提出物等に留意する。	第1学期中間考査	○	○	○	○
	第I章力と運動 第1節物体の運動 等速運動 等加速度直線運動 鉛直投げ上げ	6 ・ 7 ・ 8	身近な運動についての観察を通じて、力の性質について気づく。 直線運動、加速度などについて理解する。	出欠, 授業に取り組む態度, 提出物等に留意する。	第1学期期末考査	○	○	○	○
第2学期	第II章力と運動 運動の法則 第2節力のはたらきと つりあい	9 ・ 10	力のベクトルとしての性質を理解する。 運動の3法則について理解する。	出欠, 授業に取り組む態度, 提出物等に留意する。	第2学期中間考査	○	○	○	○
	第III章エネルギー 第1節仕事と力学的エネルギー 第2節熱とエネルギー	10 ・ 11 ・ 12	仕事とエネルギーの関係を定量的に理解する。 力学的エネルギー保存則を理解する。 熱とエネルギーの関係について定量的に理解する。	出欠, 授業に取り組む態度, 提出物等に留意する。	第2学期期末考査	○	○	○	○

第 3 学 期	第Ⅲ章エネルギー	1 ・ 2 ・ 3	抵抗、ジュール熱について理解を深める。 エネルギーの学習を通じて環境問題への関心を深める。	出欠、授業に取り組む態度、提出物等に留意する。	学 年 末 考 査	○	○	○	○
	第3節電気とエネルギー								
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業プリント， 小テスト， 宿題など。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査と平常点から総合的に判断する。									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
男子 体育	3単位	2学年 男子 1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①自らの意思、意欲で学習に参加し、体力、技術の向上に努力させる。 ②記録への挑戦、技術向上、目標到達に向けて計画し、実践できるようにする。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	①オリエンテーション 体づくり リレー ② 班分け ③④⑤ バトンパスの練習 ⑥⑦ バトンパスのテスト ⑧ タイムトライアル	4 ・ 5	授業の進め方を説明する・見学について・更衣について・体ほぐし・補強運動等の説明をする。 リレー ・50M走を計測し、グループの個人タイムがある程度均等になるように決める。 ・バトンパスの大切さ、タイミング、声、手の出し方、顔の向きなど細かい点に注意し、そのポイントがタイムを縮めるのに大きく左右することを理解させ、タイムの向上をめざす。 ・走者の交代など班の利点、欠点を考えさせ、工夫し話し合える場を設定し、仲間と協力して取り組むことができるようにする。		第1学期 中間 考查	○	○	○	○
	水泳授業(別紙)	6 ・ 7 ・ 8			第1学期 期末 考查				
第2学期	前半是水泳授業(別紙) 陸上3種目 ハードル 走り幅跳び 200M走	9 ・ 10	・1年時の記録からの向上をめざす。 ハードル ・跳び方、ぬく足、姿勢などの技術を高める。 ・タイムトライアルに向けて、自ら考え自ら学ぶ力を養う。		第2学期 中間 考查	○	○	○	○

	①②③走り幅跳び ④⑤⑥3段跳び ⑦⑧⑨記録に挑戦	10 ・ 11 ・ 12	走り幅跳び ・腕、振り上げ足、助走、踏み切りの練習をし、個人技術向上とともにタイムにトライアルする。 ・仲間と交流し、できていないところなどを指摘しあえるようにする。 ・ステップの方法、ホップ、ステップ、ジャンプの違いに気づき記録に挑戦する。 ・今までの練習をいかし、記録の向上に挑戦する。		第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	持久走 ①オリエンテーション ②③④⑤⑥グループ学習 ⑦⑧⑨タイムトライアル	1 ・ 2 ・ 3	・習熟度別グループをつくる。 ・グループにあった練習メニューを考え、自分たちで協力し、練習することができるようにする。 ・日数を重ねるたびに負荷や強度を上げていき、技術、体力、記録の向上をめざす。 ・持久走の参加努力を養う。		学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 学習カード									
【1・2・3学期における評価方法】 ・授業への取り組む意欲・姿勢・態度をみる ・それぞれの技に評価点を設け、それぞれの減点項目に従って採点する									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
男子 体育(柔道)	1単位	2学年 1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①練習を通じて、公正さ、相手を尊敬する態度や協力する態度また礼法も重視し全人格的な完成を目標とする
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス (一橋出版)

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	①オリエンテーション ②補強・受身の復習 ・後ろ受身・横受身 ・前受身・前回り受身 ③補強・受身・寝技の復習 ④補強・受身・投げ技 ⑤補強・受身・支え釣り込み足・ひざ車 ⑥補強・受身・技の復習・大外刈り ⑦小テスト	4 ・ 5	授業の進め方を説明する・見学について・更衣について・礼法・体ほぐし・補強運動等について説明する。 基本動作を身につける。 基本動作を身につける。 姿勢と組み方・移動の仕方・崩しと体さばきを身につける。 基本動作を身につける。 基本動作を身につける。 正しい受身がとれているか・技を正しく理解できているか・安定した姿勢で技をかけているか。		第1学期中間考査	○	○	○	○
	⑧補強・受身・技の復習・大内刈り ⑨補強・受身・技の復習・小内刈り ⑩補強・受身・技の復習・大腰 ⑪テスト ※6月第3週あたりから7月下旬まで水泳授業となる	6 ・ 7 ・ 8	基本動作を身につける。 基本動作を身につける。 基本動作を身につける。 正しい受身がとれているか・技を正しく理解できているか・安定した姿勢で技をかけているか・崩しは正しくできているか。		第1学期期末考査	○	○	○	○

第2学期	※9月第3週まで水泳授業となる ⑫補強・受身・技の復習 ⑬補強・受身・体落とし ⑭補強・受身・背負い投げ ⑮補強・受身・技の復習・かかり練習・約束練習 ⑯強・受身・技の復習・かかり練習・約束練習 ⑰小テスト	9・10	基本動作を身につける。 基本動作を身につける。 基本動作を身につける。 投げ技を中心に対人的な攻防を身につける。 動きの中で技をかけることができる。 正しい受身がとれているか。 動きの中で技をかけることができる。 正しい受身がとれているか。 崩しは正しくできているか。						第2学期中間考査	○	○	○	○
	⑱強・受身・技の復習・かかり練習・約束練習 ⑲強・受身・技の復習・かかり練習・約束練習 ⑳強・受身・技の復習・かかり練習・約束練習 ㉑テスト	10・11・12	動きの中で技をかけることができる。 正しい受身がとれているか。 崩しは正しくできているか。 動きの中で技をかけることができる。 正しい受身がとれているか。 崩しは正しくできているか。 動きの中で技をかけることができる。 正しい受身がとれているか。 崩しは正しくできているか。						第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	※3学期はサッカーに種目変更になる	1・2・3						学年末考査					
【1・2・3学期における課題・提出物等】													
【1・2・3学期における評価方法】 受身を正しく理解しているか・技に応じた受身がとれているか・体さばきは正しくできているか・崩しは正しくできているか（手の使い方）・崩しと体さばきは合っているか・安定した姿勢で投げることができるか・動きの中で技をかけることができるか・学習した技を状況に応じて使うことができるか・礼法やルールを守り、相手を尊重することができるか。													

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
男子 体育 水泳	3単位	2学年1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①水泳の特性を理解し、背泳ぎを泳ぎきる技能を身につける。 ②自分の課題が何なのかを把握し、次時の授業に生かすことができる。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期		4 ・ 5			第1学期中間考查				
	①オリエンテーション ②③泳法チェック ④⑤コンビネーション1 ⑥⑦⑧⑨コンビネーション2	6 ・ 7 ・ 8	授業の進め方を説明を受け、見学について・更衣について・補習等について理解する。 背泳ぎの泳法をチェックし悪いところを見つけ出す。 キック練習・ラッコキック・陸上プル・水中プルの練習をおこない技能を身につける。 手を頭の上に組んでのキック練習（リズムよくしなやかなキックをうたせる）。 きちんと伸びがとれ、かきと蹴りのタイミングの技能を身につける。 スタート練習背泳ぎ スピードを高める。 持久力を高める。		第1学期期末考查	○	○	○	○
	⑩⑪⑫コンビネーション3 ⑬⑭タイム泳法テスト	9 ・ 10	よりスピードを高める。 より持久力を高める。 25メートルを泳ぐタイム及びフォームをみる。		第2学期中間考查	○	○	○	○

		10 ・ 11 ・ 12			第2学期期末考査				
第3学期		1 ・ 2 ・ 3			学年末考査				
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
【1・2・3学期における評価方法】 ・足首が柔らかく膝は曲がりすぎていないか・正しいストロークをしているか・きちんと水をつかんでいるか・積極的に練習に打ち込み技能の進展があるか・フォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか・スピード及び持久力を高めることができたか。									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
女子 体育	3単位	2学年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	① 安全に跳び越すことが出来るように、お互いに助言や補助をし合って、楽しく協力して学習する場を作る。 ② 自主的な活動の中で、お互いの欠点や問題点を解決し、良い技能や技術を安全に習得させ、出来る喜びを個人のみならず集団の喜びとなるようにする。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	①オリエンテーション 体づくり		授業の進め方を説明する・見学について・更衣について・体ほぐし・補強運動・器具の出し入れ・器具の設置等について説明する。			○	○	○	○
	②③陸上投てき競技 (やり投げ・ターボジヤブ)	4	基本技能の習得 ・やりの持ち方・構え方・投げ方		第1学期 中間 考查				
	④⑤⑥	5	・やりを保持してのスイング ・その場突き刺し						
	⑦⑧		・歩きながらの突き刺し ・投げ・3歩投げ・的当て						
		・5歩投げ・助走練習・遠投 ・ルールを理解と習得							
	① 水泳に変わる 別紙参照	6 ・ 7 ・ 8			第1学期 期末 考查				

第2学期	①マット運動	9 ・ 10	基本な技を身につける。 前転・後転・開脚前転 後転・伸膝後転 前転		第2学期 中間 考査	○	○	○	○
	②③マット運動・跳び箱		基本的な技を習得する。 安全に、しかも速く技術を習得するためにも、お互いに補助法や技のしくみについて理解する。			助走・踏切・着手・着地といった個々の運動を理解する。 開脚跳び・かかえ込み跳び			
	④⑤跳び箱	10 ・ 11 ・ 12	基本的な技を習得する。 助走・踏切・着手・着地といった個々の運動を理解する。 台上前転 斜め仰向け跳び		第2学期 期末 考査	○	○	○	○
	⑥⑦⑧⑨跳び箱		習得した4種目の技の雄大さ・美しさ・安定性をめざす。 各自の能力に応じて演技全体の発展をめざす。			⑩⑪跳び箱テスト	それぞれの技に評価点を設け、それぞれの減点項目に従って採点する。		
第3学期	オリエンテーション 簡単なパスゲームからラリーへ 既習の技術を活用して作戦を立て、3段攻撃のゲームが出来るようにする。 まとめと反省	1 ・ 2 ・ 3	現在の自分自身やチームの力を知り、その力にふさわしいルールで、ソフトバレーのゲームを楽しむ。 高まった力に応じて新たな作戦やルールを工夫し、ソフトバレーボールのゲームを楽しむ。 課題は発見したか、その解決はできたかを反省する。		学年 末 考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 学習カード									
【1・2・3学期における評価方法】 ・授業への取り組む意欲・姿勢・態度をみる。 ・それぞれの技に評価点を設け、それぞれの減点項目に従って採点する。									

教科名〔 保健体育 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
女子 体育 水泳	3単位	2学年1～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①水泳の特性を理解し、背泳ぎを泳ぎきる技能を身につける。 ②自分の課題が何なのかを把握し、次時の授業に生かすことができる。
使用教科書・副教材等	スポーツガイダンス（一橋出版）

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期		4 ・ 5			第1学期中間考查				
	①オリエンテーション ②③泳法チェック ④⑤コンビネーション1 ⑥⑦⑧⑨コンビネーション2	6 ・ 7 ・ 8	授業の進め方を説明を受け、見学について・更衣について・補習等について理解する。 背泳ぎの泳法をチェックし悪いところを見つけ出す。 キック練習・ラッコキック・陸上プル・水中プルの練習をおこない技能を身につける。 手を頭の上に組んでのキック練習(リズムよくしなやかなキックをうたせる)。 きちんと伸びがとれ、かきと蹴りのタイミングの技能を身につける。 スタート練習背泳ぎ スピードを高める。 持久力を高める。		第1学期期末考查	○	○	○	○
	⑩⑪⑫コンビネーション3 ⑬⑭タイム泳法テスト	9 ・ 10	よりスピードを高める。 より持久力を高める。 25メートルを泳ぐタイム及びフォームをみる。		第2学期中間考查	○	○	○	○

		10 ・ 11 ・ 12			第2学期期末考査				
第3学期		1 ・ 2 ・ 3			学年末考査				
【1・2・3学期における課題・提出物等】									
【1・2・3学期における評価方法】 ・足首が柔らかく膝は曲がりすぎていないか・正しいストロークをしているか・きちんと水をつかんでいるか・積極的に練習に打ち込み技能の進展があるか・フォームが正確で伸びのある泳ぎをしているか・スピード及び持久力を高めることができたか。									

教科名〔理科〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
生物 I	2 単位	2 年全クラス	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>生物や生命現象についての観察・実験などを行ない、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する態度と能力を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。</p> <p>① 生物や生命現象についての基本的な概念・原理・法則を理解する。 ② 実験・観察を行い、生物を含む自然に対する関心や探求心を高める。 ③ 実験を安全・性格に行う技能と、結果をまとめ考察する能力を習得する。 ④ 上記を通じ、身の回りの自然現象を生物学的に探求する態度・科学的な自然観を育成する。</p>
使用教科書・副教材等	東京書籍 新編生物 I ・東京書籍 ニューサポート新編生物 I プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第 1 学期	第 1 章 細胞 [17] 中間調査まで [8] 1. 生命の単位—細胞 (4) ①細胞胞の研究 (1) ②細胞と個体 (1) ③実験：細胞観察 (2) 2. 細胞の機能と構造その 1 (4) ①核の働きと構造 (1) ②細胞質の働きと細胞小器官 (3)	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> すべての生物の基本単位である細胞について、その構造や機能を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験観察 実験観察のスケッチおよびレポート内容。 随時ニューサポート新編生物 I を使用し、要点整理・問題演習を行う。 	第 1 学期 中間 調査	○	○	○	○
	期末調査まで [9] 2. 細胞の機能と構造その 2 (4) ①細胞の働きと酵素 (3) ②実験：酵素の働き (1) 3. 細胞への物質の透過 (5) ①細胞膜とその性質 (3) ②受動輸送と能動輸送 (1) ③実験：原形質分離 (1)	5 ・ 6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> 酵素の働きについて理解する。 細胞膜の働きを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験観察 実験観察のスケッチおよびレポート内容。 随時ニューサポート新編生物 I を使用し、要点整理・問題演習を行う。 	第 1 学期 期末 調査	○	○	○	○

第2学期	<p>中間考査まで [8]</p> <p>4.細胞の増殖と分化 (6)</p> <p>①体細胞分裂 (1)</p> <p>②実験：体細胞分裂 (1)</p> <p>③細胞の分化と組織の形成 (3)</p> <p>④実験：植物の組織 (1)</p> <p>第2章 生殖と発生</p> <p>1.生殖 (4)</p> <p>①生殖の方法 (2)</p>	8 ・ 9 ・ 10	<p>・体細胞分裂によって細胞は増殖し、減数分裂によって生殖細胞を作り、受精によって子孫を増やすことを理解する。</p>	<p>・実験観察</p> <p>・実験観察のスケッチおよびレポート内容。</p> <p>・随時ニューサポート新編生物Iを使用し、要点整理・問題演習を行う。</p>	第2学期 中間考査	○	○	○	○
	<p>期末考査まで [8]</p> <p>②減数分裂と生殖細胞の形成 (2)</p> <p>2.有性生殖の過程 (3)</p> <p>①動物の配偶子形成と受精 (1)</p> <p>②被子植物の生殖と発生 (2)</p>	10 ・ 11 ・ 12	<p>・生殖細胞ができる仕組みを理解する。</p> <p>・配偶子形成と受精の仕組みを理解する。</p>	<p>・実験観察</p> <p>・実験観察のスケッチおよびレポート内容。</p> <p>・随時ニューサポート新編生物Iを使用し、要点整理・問題演習を行う。</p>	第2学期 期末考査	○	○	○	○
第3学期	<p>学年末考査まで [13]</p> <p>3.発生とそのしくみ (7)</p> <p>①卵割と胚の発生 (3)</p> <p>②胚葉の分化と器官の形成 (1)</p> <p>③発生のしくみ (3)</p> <p>第3章 遺伝 (12)</p> <p>1.遺伝の法則 (6)</p> <p>①メンデルの法則 (3)</p> <p>②いろいろな遺伝現象 (3)</p>	1 ・ 2 ・ 3	<p>・受精卵からどのようにして個体が形成されるのか、発生の過程としくみを理解する。</p> <p>・子が親に似る仕組みや、親と異なるいろいろな形質の子が生じることとその仕組みを理解する。</p>	<p>・実験観察</p> <p>・実験観察のスケッチおよびレポート内容。</p> <p>・随時ニューサポート新編生物Iを使用し、要点整理・問題演習を行う。</p>	学年末考査	○	○	○	○
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】</p> <p>実験スケッチ、実験レポート、小テスト、授業中のプリント</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】</p> <p>考査評価、実験スケッチ、実験レポート、小テスト等の総合評価</p>									

教科名〔保健体育〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
保健	1単位	2学年 1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①生涯を通じた健康づくりの知識を身につける。 ②社会生活に必要な健康に関する知識を身につける。
使用教科書・副教材等	現代保健体育 大修館001 現代保健ノート 大修館

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	オリエンテーション 2単元 ①生涯に通じる健康 1. 思春期と健康	4 ・ 5	・授業の内容と進め方を説明 ・評価の方法について説明 ・思春期の心と身体の健康について理解する。	教科書62. 63 ノート74. 75 教科書64. 65 ノート76. 77 教科書66. 67 ノート78. 79 教科書68. 69 ノート80. 81	第1学期 中間 考查	○	○	○	○
	2. 性意識と性行為の選択 3. 結婚生活と健康 4. 妊娠・出産と健康 5. 小テスト		・性に関して、性意識・性行動について理解する。 ・心身の発達と健康な結婚生活及び家族の健康を理解する。 ・妊娠出産についてそのしくみ理解する。 ・小テストを行い1学期の評価に加える。			○	○	○	○
第1学期	6. 家族計画と人工妊娠中絶 7. 加齢と健康 8. 1学期末テスト	6 ・ 7 ・ 8	・家族計画と人工妊娠中絶について理解する。 ・老化について理解する。	教科書70. 71 ノート82. 83 教科書74. 75 ノート84. 85	第1学期 期末 考查	○	○	○	○
	9. 高齢者のための社会的とりくみ 10. 保険制度と保健サービスの活用 11. 小テスト		9 ・ 10	・高齢者の健康とその支援及び保健・医療・福祉の連携を理解する。 ・各種医療体制、医療サービスについての知識を身につける。	教科書76. 77 ノート86. 87 教科書78. 79 ノート88. 89	第2学期 中間 考查	○	○	○

	単元3 ②社会生活と健康 12. 大気汚染と健康 13. 水質汚濁と健康 14. 土壌汚染と健康 15. 健康被害の防止と環境対策 16. 2学期末テスト	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・大気汚染の原因と健康への影響を理解する。 ・水質汚濁の原因と健康への影響を理解する。 ・土壌汚染の原因と健康への影響を理解する。 ・環境汚染に関する防止策について理解する。 	教科書86. 87 ノート108. 109 教科書88. 89 ノート110. 111 教科書90. 91 ノート112. 113 教科書92. 93 ノート114. 115	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	17. 食品衛生活動のしくみと働き 18. 働くことと健康 19. 労働災害・職業病と健康 20. 健康的な職業生活 21. 学習のまとめ 22. 3学期末テスト	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全性と行政について学び、自分達の健康とどう関わっていくかを理解する。 ・労働について学び、働くことと健康の関わりについて理解する。 ・労働災害、職業病についての知識を深める。 ・健康的な職業生活に関する取り組みを理解する。メンタルヘルスケア 余暇の過ごし方 ・1. 2年で学習してきたことのまとめとして、アンケート等を実施し、学習の振り返りをさせ、将来につなぐ。 	教科書96. 97 ノート118. 119 教科書102. 103 ノート122. 123 教科書104. 105 ノート124. 125 教科書106. 107 ノート126. 127	学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 長期休業中に課題を与え、各期の評価に加える。 保健ノートを各期終わりに提出させる。									
【1・2・3学期における評価方法】 ペーパーテストと平常点で評価する。 学期末考査を通じて各章の重要点の理解を把握、評価すると同時に保健ノートを提出させ平常点の一部として扱う。 中間期に小テストを行い評価に加える。									

教科名〔 芸術 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
音楽Ⅱ	2単位	2年 3～6 組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①歌唱・器楽・鑑賞などを通して、音楽活動の魅力を発見する。 ②音や音楽への興味・関心を養い、聴くことへの集中力をより高める。 ③音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。 ④音楽の歴史をたどり、西洋音楽史についての理解をより深める。 ⑤アンサンブルを通じて人と協力する姿勢を身につける。
使用教科書・副教材等	音楽の友社『高校生の音楽2』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	歌唱 器楽（アルトリコーダー）	4 ・ 5	☆ 1年次の既習曲を用いて、歌うことの楽しさを感じるとともに、新しい仲間と音楽を通してクラス作りをする。 ☆ アルトリコーダーの基本的な運指を習得し、曲を演奏する楽しさを味わう。		第1学期中間考查	○	○	○	
	世界の歌 器楽（アルトリコーダー） 鑑賞	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	☆ 世界の歌を通じて、異文化に慣れ親しむ。 ☆ ソプラノリコーダーとの息の使い方の違いなどを理解し、美しい音色で演奏できる技術を身につける。 ☆ ロマン派の音楽に親しむ。		第1学期期末考查	○	○	○	○
第2学期	合唱 器楽（ギター）	9 ・ 10	☆ 2部合唱により、自分のパートに責任を持って歌える姿勢を身につける。 ☆ 声によるハーモニーの美しさを感じる。 ☆ 各部の名称・ギターの構造・タブ譜による旋律の演奏の復習。		第2学期中間考查	○	○		○

	器楽 (ギター) 合唱 2 鑑賞	10 ・ 11 ・ 12	☆ コードの押さえ方を学ぶ ☆ 基本的なコードの習得。弾き語りにも挑戦する。 ☆ 合唱における発声法、表現を工夫できる力を養う。 ☆ 近代の音楽に親しむ。		第 2 学 期 期 末 考 査	○	○	○	○
第 3 学 期	リコーダーアンサンブル 鑑賞	1 ・ 2 ・ 3	☆ アルトリコーダーにおけるアンサンブルを通じて、自分の役割をしっかりと認識して果たし、みんなでひとつのものを創り上げる喜びを味わう。 ☆ 日本の音楽に親しむ		学 年 末 考 査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 毎時間の演習プリント・その他プリント課題等 学期ごとにファイル提出									
【1・2・3学期における評価方法】 実技試験（授業で取り扱った曲より抜粋）、提出課題、毎時間の授業に取り組む姿勢、出席状況などを総合的に評価する。									

教科名〔 芸術 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
美術Ⅱ	2単位	2年1,2,5,6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①美術の創造的でさまざまな活動を体験させること ②美的体験を豊かにすること ③美術を愛好する心情を育てること ④感性を高めること ⑤講義実習を通して個性豊かな美術の能力を高める
使用教科書・副教材等	光村図書『美術2』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	飛び出す絵本製作 紙の折り曲げ構成 演習を通しての造形研究 表紙デザイン 装丁演習	4 ・ 5	<input type="checkbox"/> 本の構造を知る。 <input type="checkbox"/> 紙の性質を知り、立体的な絵の表現、構成を考える。 <input type="checkbox"/> どんな本を作りたいか構想を練り、自分なりの工夫をし、制作する。		第1学期中間考查	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	版画制作 ドライポイントによる自画像制作 2版多色刷り	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	<input type="checkbox"/> 自分を描くことで、自己を客観的に見つめる。 <input type="checkbox"/> 版画の特性を知る。		第1学期期末考查	<input type="checkbox"/>				
第2学期	パネル上の平面的表現 ポスター制作	9 ・ 10	<input type="checkbox"/> ビジュアルコミュニケーションについて理解し、その表現の可能性について考察する。 <input type="checkbox"/> レタリングの応用。		第2学期中間考查	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

	木彫で野菜を作る	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然物の特徴をよく観察し、量感のある塊を表現できるようにする。 ○ 素材である木の性質などについて理解する。 ○ 道具や用具の使用法を学び、それらが正しく使用できるようにする。 		第2学期期末考査	○		○	○
第3学期	静物画、スケッチ 鉛筆デッサン 野菜、ビン等、 構成について。 油彩画制作 静物画8号程度	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 静物画を通して表現方法について考える。 ○ モチーフの構成を考え自由に配置し、組み立てることによって静物画における構図や主題について理解を深める。 ○ 油彩画を通して、水彩画では得られなかった感動や、表現の幅の広がりを得る。 		学年末考査	○		○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 各作品、演習プリント等									
【1・2・3学期における評価方法】 各作品、演習プリント、平常点等を、総合的に判断する。									

教科名〔 芸術 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
書道Ⅱ	2単位	2年1・2・3・4組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①書道の創造的な諸活動を通して書を愛好する心情を育てる ②日本や中国の書の文化や伝統についての理解を深める。 ③感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	大阪書籍『高校書道Ⅱ』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	の工夫 芸術的な感受や表現	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	◎ 和紙20枚を染める（技法4種） ◎ 漢字仮名混じり文創作『現代詩を書こう』 ～今を生きる自分自身の表現～ ・書美の要素を再認識するための研究 ・紙面構成のバリエーション ・自作染紙に創作 ◎作品裏打ち表具 パネル製作	4 ・ 5	・自分で紙を染めることで作品の創作意欲を高める。 ・テーマごとに試行錯誤を大胆におこない自分の表現力の幅を広げることをめざす。 ・自己の、表現意図にもとづき表現する。 ・さまざまな紙面構成があることを理解し、作品効果の違いを知る。自分なりの個性を打ち出すことができるように工夫し取り組む。 ・協力しあって、作品の裏打ち表具をし、くらしの中に書を生かす簡単な表装技術を身につける。	プリント 作品例展示 全作品展示	第1学期 中間 考查	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	◎ 仮名創作 「百人一首創作うちわをつくらう」 ・歌を選び必要事項を原稿用紙に書く ・百人一首基本作品 ・ひらがな単体創作 ・ひらがな連綿創作 ・変体仮名を使った創作 ・散らし書き（タテ、ヨコ2種類） ・うちわ型創作 ◎ 仮名臨書 「高野切第一種」 ◎ ペン字による仮名	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・仮名の執筆法、用筆法を確実に身に付ける。 ・気持ちよく取り組める好きな和歌を選ぶ。 ・仮名特有のリズムを理解しているか復習。 ・段階を追って創作力を高めていく。 ・各自の個性を打ち出す作品になるよう工夫をかさね、うちわ構成で表現することで作る喜びと達成感を味わう。 ・古典の魅力に気付き、自己の表現技術を生かしていねいに臨書する。 ・仮名の字源、連綿など、ペン字でも練習することで知識と理解を確かなものにする。	プリント 百人一首テキスト 各種料紙 プリント うちわ仕立て 発注	第1学期 期末 考查	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

第2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・創作うちわ展示ラベルを書く ◎ 第33回書道コンクール 出品作品を書く <ul style="list-style-type: none"> ・始平公造像記 ・顔氏家廟碑 ・賢愚経 ・南川県墓誌 ・集王聖教序 ・祭姪稿 等 	9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の集いに出展する、うちわ作品解説の、展示ラベルを書く。 ・工夫と練習の積み重ねが作品に反映するよう努力する。 ・古典の特徴をとらえて表現する。 ・意欲的にコンクール出品作品に取り組む。 	完成うちわは、文化の集いに展示 コンクール出品	第2学期中間考査	○	○	○	○
	◎ 漢字のルーツを知ろう <ul style="list-style-type: none"> ・甲骨文字 ・金文 ◎ 篆書の学習 <ul style="list-style-type: none"> ・篆書の基本用筆, 特徴 ・泰山刻石 ・清代篆書 ・姓名篆書体検字プリント ・篆書で姓名を書く ◎ 篆刻「姓名印を彫る」	10・11・12	<ul style="list-style-type: none"> ・甲骨文、金文を学び、漢字の字源と歴史的背景や意義を理解する。 ・甲骨→金文→小篆の書体成立の流れに興味をもち、書表現の多様性に気づく。 ・篆書の基本用筆, 特徴を理解し、書く。 ・古典の魅力に気付き、表現、臨書する。 ・書体辞典の使い方を理解し正確に検字する。 ・手順を理解し篆刻することで、姓名への愛着を深め、いっそう作品制作の意欲を高める。 	プリント 手順プリント	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	◎第59回大阪府高等学校書道展鑑賞レポート(天王寺:大阪市立美術館) <ul style="list-style-type: none"> ・文字を使わず点と線でイメージを表現しよう。 「エネルギー・激・強」 「デリケート・静・弱」 ◎ 大字一字作品 <ul style="list-style-type: none"> ・淡墨 ・濃墨 ・ 作品批評会 まとめプリント	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館に出かけ、興味を持って鑑賞し視野を広げる。 ・文字の意味に頼らない純粹表現ができるよう多様な線質、点の筆触にこだわって表現活動を試みる。 ・体全体が筆と一体化し、スケールの大きな筆の動きができるよう思い切って書く。 ・気持ちにかなった1字を選び、これまでに身につけた総合的な表現力を発揮して書く。 ・次の製作のステップになるよう、プラス面マイナス面の両視点から批評し合うことで、仲間を評価し励ます力をつける。 	鑑賞レポート まとめプリント	学年末考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 作品は基本的に毎時提出。合格制。 練習作品とプリントもすべてファイルにとじ、各考査前に提出。 2学期に書道コンクール出品。鑑賞レポート。									
【1・2・3学期における評価方法】 毎時の提出作品。各考査前に提出のファイル。プリント記入状況。授業時の取り組み状況の観察。自己評価表。感想文。等これらを総合的に評価する。									

教科名〔 英語 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
英語ⅠⅠ	3単位	2年 全組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解することができる。 2. 幅広い話題について、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝えることができる。 3. 幅広い話題について、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。
使用教科書・副教材等	東京書籍 ALL Aboard! プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント			
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解
第1学期	Lesson 1 Sharing One World 世界はひとつ	4 ・ 5	〔題材内容〕 ・地球上に暮らす人間はみな同じであり、しかも違うということを理解させ、違いを認め合って生きることを考えさせる。 〔言語活動〕 ・お互いの身につけているものや持ち物をほめたり、それについて説明したりする。 〔言語材料〕 ・動詞の目的語になる that 節 (S+V+that 節, S+V+O+that 節) ・[プラスワン] 否定疑問文 ・[機能表現] ほめる	予習をして、授業に臨む。 新出単語・熟語の確認。 ノートを整理する。 文法事項の整理をプリントなどで行う。	第1学期 中間 考査	○	○	○	○
	Lesson 2 Singaporean Teen Talk シンガポールの街角で					○	○	○	○
	Lesson 3 Modern Monsters 現代の妖怪	5 ・ 6	〔題材内容〕 ・人間中心的な視点で捉えがちな環境問題を、妖怪という視点から問い直す。 〔言語活動〕 ・「より～です、もっとも～です」という比較表現ができるようにする。 ・「忠告する」表現を学び、使用できるようにする。 〔言語材料〕 ・比較表現 (more, the most) ・[機能表現] 忠告する	予習をして、授業に臨む。 新出単語・熟語の確認。 ノートを整理する。 文法事項の整理をプリントなどで行う。	第1学期 期末 考査	○	○	○	○
Lesson 4 The Most Mysterious Smile モナリザのほほえみ	6 ・ 7 ・ 8	○				○	○	○	
第2学期	Lesson 5 Bear's Pie 思い出のチェリーパイ	9 ・ 10	〔題材内容〕 ・それぞれの登場人物の立場を理解し、さらに自分自身の進路について考える。 〔言語活動〕 ・物語という形式における登場人物の立場や心理状態を正確に読み取らせる。 ・読み取った物語をさらに発展させる形で、自分自身で考えた結末を書く。 〔言語材料〕 ・不定詞を含む表現(2) (tell ... to ～, It is ... for — to ～) ・[プラスワン] It is ... that ～ ・[機能表現] 予想する	予習をして、授業に臨む。 新出単語・熟語の確認。 ノートを整理する。 文法事項の整理をプリントなどで行う。	第2学期 中間 考査	○	○	○	○
	Lesson 6 Mottainai! モッタイナイ					○	○	○	○

	Lesson 7 Don't Forget Breakfast! 朝食は忘れずに Lesson 8 A City in the Sky 空中都市「マチュピチュ」	10 ・ 11 ・ 12	【題材内容】 ・朝食の役割と意義を理解した上で、各国の高校生がどんな朝食を好むのかを知る。 【言語活動】 ・好きな朝食メニューについて英語で表現する。 【言語材料】 ・不定詞を含む表現(3)(S+V+O+how to～) ・[プラスワン] 関係副詞 when, where ・[機能表現] 誘う	予習をして、授業に臨む。 新出単語・熟語の確認。 ノートを整理する。 文法事項の整理をプリントなどで行う。	第2学期 期末 考查	○	○	○	○
第3学期	Lesson 9 A Young Katsubenshi 若き活弁士、夢を語る Lesson 10 Media Literacy メディア・リテラシー	1 ・ 2 ・ 3	【題材内容】 ・同年代の若者である麻生子八咫さんへのインタビューを通して、夢に向かって努力することの意味について考えさせる。 ・日本特有の文化について考える機会をもつ。 【言語活動】 ・生徒それぞれが、自分の夢について英語でスピーチを行う。 【言語材料】 ・知覚動詞 (see など+O+動詞の原形 [動詞の ing 形])	予習をして、授業に臨む。 新出単語・熟語の確認。 ノートを整理する。 文法事項の整理をプリントなどで行う。	学年 末 考查	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 1. ノート、プリント等の提出は随時おこなう。 2. 新出単語の小テストを行う。 3. 『予習』を励行する。									
【1・2・3学期における評価方法】 1. 年5回実施する定期考查の点数。 2. 小テストの点数、提出物の提出状態。 3. 授業への参加態度等 以上1を基本に2, 3を考慮して評価をする。(各項目の割合は未定)									

教科名 [英語]

科目名	単位数	学年・組	担当者名
英文法	2単位	2学年全クラス	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	基礎英文法の知識の定着をはかる。
使用教科書・副教材等	基礎からの英語構文読解ノート

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度	関心・意欲・	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	1 第1文型 2 第2文型 3 第3文型 4 第4文型 5 第5文型 6 It+be+形容詞+to do	4 . 5	*第1文型の理解 *第2文型の理解 *第3文型の理解 *第4文型の理解 *第5文型の理解 *It is ...to~の構文の理解	*5文型の整理と定着 *文型の違いを確認させる	第1学期中間考查	○	○	○		○
	7 It+be+形容詞+that 8 S+think+it+形容詞that 9 S+think+it+形容詞to do~ 10 強調構文 It is~that 11 It seems that AV~ 12 to 不定詞と慣用表現(1)	6 . 7 . 8	*It is ...that...の構文の理解 *構文の理解と用法 *構文の理解と用法 *強調構文の理解と用法 *構文の理解と用法 *不定詞(1)の意味と用法	*構文を使って文を作る *不定詞の用法の違いを理解し、英文を作る	第1学期期末考查	○	○	○	○	
第2学期	13 to 不定詞と慣用表現(2) 14 to 不定詞と慣用表現(3) 15 動詞+A+to 不定詞 16 知覚動詞 17 使役動詞 18 分詞と分詞構文	9 . 10	*不定詞(2)の意味と用法 *不定詞(3)の意味と用法 *分詞の形と用法	*知覚動詞を使って英文を作る *分詞を使用する	第2学期中間考查	○	○	○	○	○

	19 動名詞と慣用表現		* 動名詞の形と用法	* 動名詞を使用する		○	○	○	
	20 助動詞と慣用表現		* 助動詞 can, may, must の意味と用法 * 助動詞 would, should の意味と用法	* 助動詞を使って文を作る	第2学期期末 考查	○	○	○	
	21 受動態 (1)	10	* 受動態の形と用法	* 受動態の作り方を定着		○	○	○	
	22 受動態 (2)	11	* 注意すべき受動態	し、英語表現の幅を広げ る		○	○	○	
	23 比較 (1)	12	* 比較 (1) 形式と用法	* 比較級を利用して英語表 現の幅を広げる		○	○	○	
	24 比較 (2)		* 比較 (2) 形式と用法			○	○	○	
第3学期	25 関係代名詞		* 関係代名詞の形と用法	* 関係代名詞を利用して文 を作る	学年末 考查	○	○	○	
	26 関係副詞		* 関係副詞の形と用法	* 関係副詞を利用して文を 作る		○	○	○	
	27 代名詞	1	* 代名詞の意味と用法	* 代名詞の主格・所有格・ 目的格を定着する		○	○	○	
	28 仮定法	2	* 仮定法の理解と用法	* 様々な人称代名詞を利用 して、英語表現の幅を広 める		○	○	○	
	29 無生物主語 (1)	3	* 無生物主語構文の用法			○	○	○	
	30 無生物主語 (2)					○	○	○	
<p>【1・2・3学期における課題・提出物等】 各学期毎に、各文法事項に関してまとめたノートと記入済みのテキストを提出。</p>									
<p>【1・2・3学期における評価方法】 各考查点と課題提出、小テスト、ノート、テキスト記入、授業態度、意欲を加味した平常点を評価点とする。</p>									

教科名〔 家庭 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
家庭総合	2単位	2年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①人の一生を生涯発達の視点で総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 ②生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。
使用教科書・副教材等	開隆堂『家庭総合 明日の生活を築く』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解	
第1学期	衣服の構成・体の動きにあった衣服	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	平面構成と立体構成の特徴を理解する。着心地のよい被服は着用目的や動作などに合った被服であることを理解する。	端切れとホッチキスによるミニチュアパンツ作り	第1学期末 考査	○	○		○	
	三角巾・エプロンの製作		三角巾・エプロンの製作を通して基礎的な縫製技術を身につけ、衣服を適切に管理できるようにする。	三角巾に名前の縫い取り 基礎縫いエプロン製作実習		○	○	○	○	
	人の一生と発達		各ライフステージの特徴と課題について理解する。	プリント記入		○	○		○	
	現代家族の特徴		現代の家族の特徴および家庭の機能とその変化について理解し、各自が担う家庭での役割や親子関係のありかたについて考える。	VTR視聴 プリント記入		○	○	○	○	
	家庭生活と労働		職業労働と家事労働の意義や特徴、現状と課題について理解する。男女が共に家庭生活の責任を果たし、人間らしい働き方をするための課題について考えを深める。	プリント記入		○	○		○	
	家族と法律		家族に関する法律について理解する。	プリント記入		○			○	
	これからの家族・家庭		ライフスタイルや生活にかかわる価値観など多様な生き方を認め、これからの家族のあり方や社会との関わりについて考える。	プリント記入		○	○	○	○	
第2学期	子どもの世界	9	自分自身の子ども期を振り返ったり、子どもの観察を通して、子どもへの関心を持つ。	VTR視聴	第2学期末 考査	○		○	○	
	子どもの発達と生活	10	青年期の健康管理の重要性を理解する。また、乳幼児期が人間の発達の基礎をつくる重要な時期であることを理解する。	保育人形での保育体験 絵本・伝承遊び体験		○	○	○	○	
		11								
		12								

	親と社会の役割と保育		乳幼児期における親の役割の重要性を理解する。また、男性も女性も共に保育にかかわることの意義、子育てに関する社会的支援のあり方や支援策について理解する。	プリント記入		○	○		○
	子ども期の保障と子どもの福祉		子どもを取り巻く社会の変化と課題について理解する。	プリント記入		○	○	○	○
	人間と食べ物		現代の食生活の多様化やその問題点を把握し、健康で豊かな食生活を営むための食事について考える。	プリント記入		○	○		○
	食品と栄養		健康に生きるための食生活と栄養摂取について関心を持ち、栄養素の種類と働きについて理解する。	プリント記入	査	○	○		○
	食品の管理と安全		食中毒の原因や予防法について、日常生活と関連づけて考える。食の安全や安心について消費者として関心を持つ。	プリント記入		○	○		○
	食事をつくる		食品の調理上の性質を生かした調理法について理解し、調理の基礎的な技術を身につける。	調理実習		○	○	○	○
第3学期	高齢期を魅力的に生きる		高齢期の心身の特徴と生活について理解し、高齢期を肯定的にとらえる。	VTR視聴 プリント記入		○	○		○
	高齢社会の現状と課題	1	高齢者の生活実態を把握し、現状と課題を理解する。	プリント記入	学年末 考査	○	○		○
	高齢者の自立支援と福祉	2	高齢者福祉の基本的な理念や考え方の変化、高齢者の福祉サービスの概要について理解する。	プリント記入		○			○
	人間の尊厳と介護	3	介護の体験を通してハンディキャップのある人の尊厳を守ることの大切さを理解する。	介護実習 プリント記入		○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 1学期—製作物（エプロン・三角巾）、製作の記録、プリント、保育人形体験感想文、VTR視聴プリント 2学期—プリント、調理実習のまとめプリント 3学期—プリント、VTR視聴プリント、介護実習感想文									
【1・2・3学期における評価方法】 1学期—作品評価、プリント・製作の記録の提出状況、学習への取り組み状況、考査成績を総合評価 2学期—プリントの提出状況、学習への取り組み状況、考査成績を総合評価 3学期—プリントおよび感想文の提出状況、学習への取り組み状況、考査成績を総合評価									

教科名〔 数学 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
数学Ⅱ (イ)	2単位	2年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①多項式の割り算や分数式の計算について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ②複素数や2次方程式の解について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。 ③点と直線について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばす。 ④円と直線について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばす。 ⑤不等式と領域について、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	使用教科書：数研出版『改訂版 高校の数学Ⅱ』、 副教材：数研出版『ポイントノート 数学Ⅱ』、プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	考查範囲	評価の観点のポイント				
						態度 関心・ 意欲	思考・ 判断	技能・ 表現	知識・ 理解	
第1学期	(数学Ⅰの復習) 1章 式と証明・高次方程式 1節 式と証明 1. 多項式のわり算 2. 分数式の計算(1) 3. 分数式の計算(2)	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> 数学Ⅰで学んだ整式の加法・減法・乗法について、基本的な事項に十分時間をかけてしっかりと理解する。 整式の除法の意味を理解し、その計算ができるようになる。 分数式について理解させ、分数式の四則演算ができるようになる。 分数式の形において、分母は単項式の場合だけでなく、多項式になる場合も取り上げて検討する。 	課題プリント 課題プリント 副教材	第1学期 中間 考查	○			○	
	2節 複素数と方程式 1. 複素数 2. 複素数の計算 3. 2次方程式の解と判別式 4. 因数定理 5. 高次方程式	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> 数の範囲を複素数に拡張する。 複素数の基本的な性質を理解する。 複素数の四則計算ができるようになる。 2次方程式の解の公式を用いて、解けるようになる。 判別式を用いて、解の判別ができるようになる。 解と係数の関係を理解する。 因数定理を理解させ、それを用いて簡単な高次方程式が解けるようになる。 	課題プリント 副教材	第1学期 期末 考查	○		○	○	
第2学期	2章 図形と方程式 1節 点と直線 1. 直線上の点と距離 2. 直線上の内分点・外分点 3. 平面上の点と距離 4. 平面上の内分点・外分点 5. 直線の方程式	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> 数直線や座標平面上で、2点間の距離や千分の内分点・外分点の座標を求めることができるようになる。 座標平面上にある直線の方程式を求めることができるようになる。 	課題プリント 副教材	第2学期 中間 考查	○	○	○	○	

	6. 2直線の関係		<ul style="list-style-type: none"> 2直線の交点の座標や平行・垂直の条件を調べ、それをもちいることができるようになる。 				○	○	○
	2節 円 1. 円の方程式 2. 円と直線	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> 座標平面上の円の方程式を求めることができるようになる。 与えられた式を変形して、円の方程式から中心と半径を求めることができるようになる。 円と直線の位置関係について理解する。 原点を中心とする円周上の点における接線の方程式を求めることができるようになる。 	課題プリント 副教材		第2 学 期 期 末 考 査	○	○	○
第3 学 期	3. 領域 4. 不等式と領域(1) 5. 不等式と領域(2)	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> 条件を満たす奇跡の方程式を求めることができるようになる。 不等式や連立不等式の表わす領域を図示できるようになる。 斜線で示された領域を不等式や連立不等式で表わすことができるようになる。 	課題プリント 副教材		学 年 末 考 査	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業のノート・授業に用いたプリント・課題プリント・副教材の問題集・長期休暇の宿題など。									
【1・2・3学期における評価方法】 考査・提出物の内容・授業を受ける態度などから総合的に評価する。									

教科名〔 数学 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
数学Ⅱ(口)	1単位	2年1～6組	*

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	①小・中学校で学んだ関連事項を最習得し、理解を深める。 ②関数が、自然や社会の事象を数量化して扱うのに大切であると認識させる。 ③数の表記について、なぜ便利なのか理解し習得する。 ④三角関数や指数関数について、基礎的な知識の習得を図る。 ⑤微分の考えについて、基礎的な知識の習得を図る。
使用教科書・副教材等	数研出版『改訂版 高校の数学Ⅱ』 副教材：数研出版『ポイントノート 数学Ⅱ』、プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1. 学習活動の特記事項 2. 副教材の使用など	調査範囲	評価の観点のポイント				
						態度	関心・意欲	思考・判断	技能・表現	知識・理解
第1学期	3章 いろいろな関数 1節 三角関数 1. 一般角 2. 三角関数 3. 三角関数の相互関係 4. 三角関数の性質	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Ⅰの内容を復習する。 ・動径の表わす一般角を理解し、一般角の三角関数を学習する。 ・図より三角関数の相互関係を理解する。 	復習プリント 副教材	第1学期 中間 考査	○	○	○	○	○
	5. 三角関数のグラフ(1) 6. 三角関数のグラフ(2) 7. 加法定理 8. いろいろな公式 9. 弧度法	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数のグラフを丁寧に描いて、周期関数の概念を理解する。 ・今までに学習したいろいろな関数と周期関数の違いを理解する。 	復習プリント 副教材	第1学期 期末 考査	○	○	○	○	○
第2学期	2節 指数関数と対数関数 1. 指数法則 2. 累乗根	9 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> ・指数の意味を学び、記述方法を習得する。 ・累乗根の意味を理解する。 ・n乗根の性質を理解し、計算できるようになる。 	復習プリント 副教材	第2学期 中間 考査	○	○	○	○	○

	3. 指数の拡張 4. 指数関数のグラフ(1) 5. 指数関数のグラフ(2)	10 ・ 11 ・ 12	<ul style="list-style-type: none"> ・分数の指数を理解する。指数を拡張しても、指数法則が使用できる便利さ、法則の汎用性を理解する。 ・指数関数のグラフが描け、潜在的にある比例関係だけの知識から脱却を図る。 	復習プリント 副教材	第2学期 期末 考査	○	○	○	○
第3学期	4章 微分法と積分法 1節 微分法 1. 平均変化率 2. 微分係数 3. 導関数 4. 導関数の計算 5. 接線 6. 関数の増減 7. 関数の極大値・極小値 8. 関数の最大値・最小値	1 ・ 2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・平均の速さや変化率を理解する。 ・瞬間の速さや変化率から微分係数や導関数の概念を学習し、簡単な計算ができるようになる。 ・3次関数の増減の変化がわかり、グラフが描けるようになる。 	復習プリント 副教材	学年 末 考査	○	○	○	○
【1・2・3学期における課題・提出物等】 授業のノートに替わるプリント・授業に用いたプリント・副教材の問題集・長期休暇の宿題など。									
【1・2・3学期における評価方法】 定期考査の成績・提出物の内容・授業を受ける態度などから総合的に評価する。									

